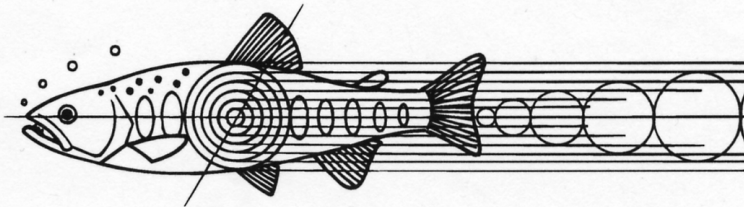


news

長良川市民学習会ニュース



長良川に徳山ダムの水はいらない。

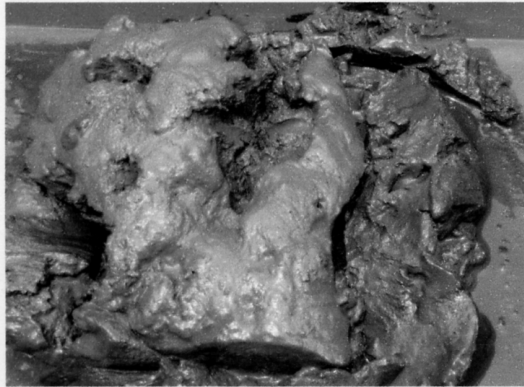
No.6
2009年7月29日

表紙・目次(写真:トーク&コンサート)……	P.1	住民訴訟提訴・愛知の会より……………	P.10
河口堰運用14年目、長良川の現状……………	P.2・3	緊急出版によせて……………	P.11
トーク&コンサートより……………	P.4・5	校歌に歌われた長良川、事務局より……………	P.12
動き出した「導水路」情勢……………	P.6・9		

河口堰運用 14年、長良川の現状

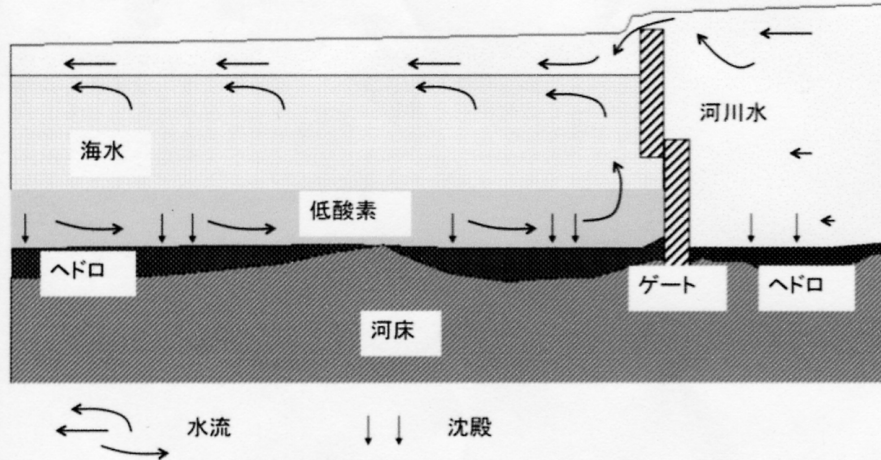
市民学習会代表 粕谷志郎

第5回（2月7日）、第6回（4月14日）市民学習会では、2回にわたり、カメラマン吉村朝之さんの長良川の映像を拝見した。ブナやミズナラの樹林帯に源を発し、魚類の豊富な上・中流部に比して、河口部の状況は、まさに死の河口にふさわしい状況であった。堰下流にはヘドロが溜まり、生き物が見あたらない。無数の穴が見られるが、メタンの吹き出し口である。



腕を突き刺すと、肩まで埋まる。カメラは上流から下流へ向けて進んでいた。時折、ヘドロをかき回すと、巻き上がったヘドロはカメラを覆い尽くし、視界が遮られた。川底の逆流がはっきりととらえられた瞬間である。堰下流の川底では、常時逆流が発生しており、海側からヘドロを運ぶ。酸素が乏しく、生き物は生きられない。下の図のような状況が出来上がっている。

写真 長良川 河口から4kmの川底のヘドロ
メタンの吹き出し口が見える（2009年6月27日）



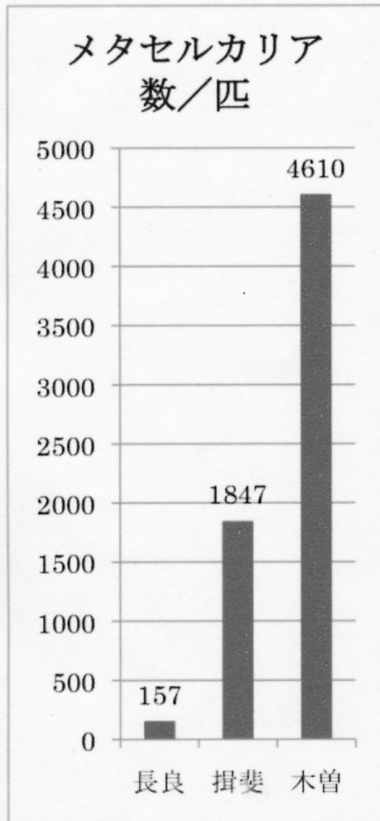
図の説明

ゲートを越えた真水は重い海水の上を滑るように、海水を巻き込みながら流下する。これを補う逆流が川底で発生する。また、層形成のため、下層へ酸素が移行しない。

		ヤマトシジミ	マシジミ
揖斐川	20km	1/2	7/11
	15km	0.3/3	4/0
	4km	31/21	0/0
長良川	34km	0/0	4/2
	30km	0/0	7/5
	25km	0/0	1/0.3
	20km	0/0	0/0
	15km	0/0	0/0
	4km	0/0	0/0

ヤマトシジミもマシジミもない

左の表は、採泥機（19.5 x 19.5 cm）で川底の泥を取り、数えた値である（/の前が09年5月31日、後が6月27日）。長良川のヤマトシジミは消滅である。ただし、堰下流のヘドロが溜まっていない浅瀬には、少し生き残っている箇所はある。堰上流は真水となっているので、汽水生のヤマトシジミは繁殖できない。しかし、淡水生のマシジミも20kmまで見あたらない。これも、堰による影響とかがえられる。



堰の上流にもヘドロは溜まりやすく、このヘドロの中から、環境ホルモンと称される化学物質が多量に検出されている。また、金属類の濃度も高く、底生動物には過酷な生息環境となっている。

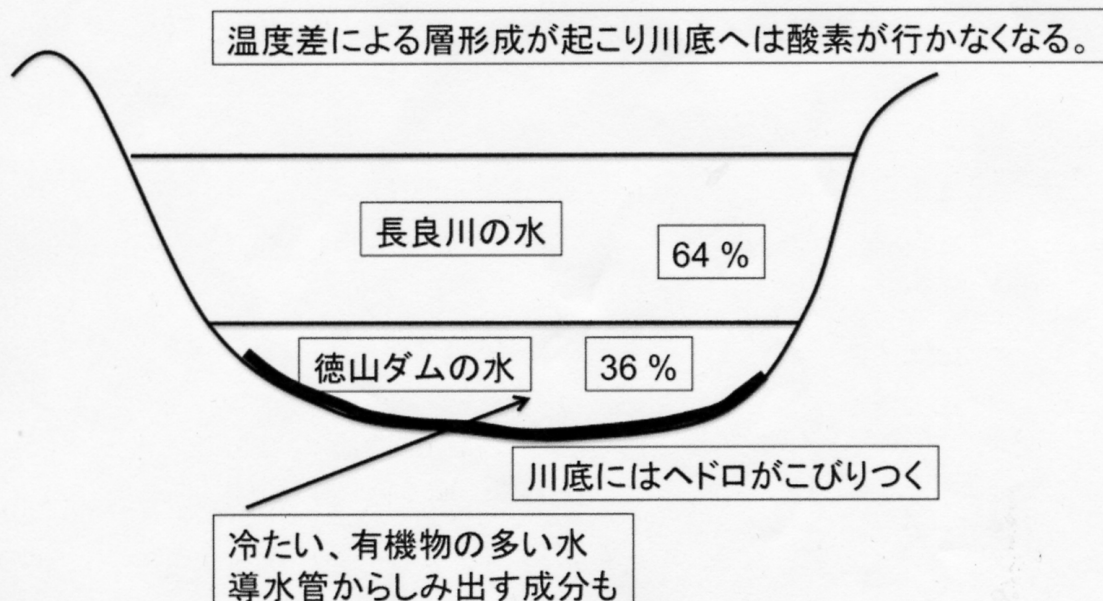
長良川は養殖池に？

鮎の鱗に寄生する宮田吸虫という寄生虫の幼虫（メタセルカリア）を調べている。堰運用の前の1990年の寄生数は、長良川で鮎1匹あたり3,663個体、揖斐川1020個体、木曾川770個体であった。この寄生虫は、中間宿主としてカワニナを必要とするため、養殖鮎からは全く検出されない。自然度を表す指標生物と言える。昨年11月の寄生数を左の図に示した（実施者：記野秀人）。かつては、最も自然度が高かった長良川だが、今や、限りなく養殖池に近くなったというショッキングなデータである。

渇水時に徳山ダムの水が長良川に流される？

木曾川水系連絡導水路計画では、徳山ダムに貯まった水をコンクリート管を通して、長良川に流そうというものである。平成6年の渇水を参照すると、下図のようなシミュレーションが出来る。昨年夏のデータでは、長良川の水温24℃、COD 2.1 mgO/Lに対して西平ダムでは17.2℃、3.6 mgO/Lであり、温度差による層形成は避けられないと考える。河口堰と同じく、川底には酸素が届かなくなり、「死の川底」が出現することになる。

渇水時の河川断面



このままで、このままで流れよ長良川

第一部は富樫幸一さん聞き手に3人の語り手が長良川についてトーク。高橋恒美さんは1970年代、岐阜市民が中心の河口堰反対運動の事務局を担い、最近「鮎鮎街道今むかし」をまとめた。新村安雄さんは河口堰着工時に長良川の源流から河口部まで8日間かかり泳いで下るとい水中デモをし、以来岐阜に住み、鮎の産卵を見る会を20年続けて開催するなど長良川の変化を見続けてきた。平井久美子さんは大学卒業後岐阜に戻り、生まれ育った岐阜の町で、町づくりに関わるさまざまな活動に参加。現在はぎふNPOセンターの職員として、長良川流域の地域を結び持続可能な地域作りを模索している。

年代も活動も様々な3人の話から、会場の参加者も様々な感想をもたれたようです。第2部は笠木透と雑花塾のフォークコンサート。『長良川』では300人の聴衆と一緒に大合唱でした。ロビーでは写真家・後藤亘さんの「長良川賛歌」展。素晴らしい長良川を再発見しました。73名の方がアンケートを提出してくださいました。ありがとうございました。その一部を紹介します。

●トークについて

- ・3名の方のトークと映像で、よく世の中が見えてきた。現実を知ることの大切さを考える機会になった。自然と平和な社会を次代につなげたい。
- ・木曾、長良、揖斐の3つの川の歴史と現実を知ることができた。
- ・河口堰反対運動の歴史は一応理解できたが、建設されてしまった現実は、やはり敗北なのではないか。ややきつい言い方かもしれませんがエネルギーが足らなかったというしかない。勿論岐阜に住む私にもその責任はあるのですが。今後は堰の開門をする運動を強力に推進していかなければという思いを強くしました。
- ・長良川河口堰の運動で「環境」「地域づくり」の大切さが認知されるようになった、という新村さんの話が印象的でした。
- ・若い平井さんのお話が特に印象的でした。地域循環社会の中で生きていける、それがエコにもなる社会なのではないかと私も思います。地域で生きていくために川の役割はほんとうに大きいと改めて知りました。
- ・川があり街があり、人がいて文化がある—それが地域なんだ、と実感しました。

●コンサートについて

- ・笠木さん、今一度、長良川に愛をこめて怒りの歌をつくってください。
- ・笠木透さんのコンサート、何十年ぶりに聞きました。すてきになりましたネー。
- ・コンサート、大変感動しました。本とCDも買い、豊川の設楽ダム反対メンバーに聞いてもらおうと思っています。(学生時代に設楽町に住んでいました)

●今後の運動への意見

- ・名古屋市でも新たに論議が巻き起ころうとしています。岐阜のみなさんもしっかり連帯して計画そのものを撤回させるようがんばりましょう。名古屋では撤退の論議が中心ですが、財政上の問題だけでなくもっと根本的な議論を期待しています。名古屋でも今日の続きのような企画をやりたいですね
- ・最大の水不足の時でも、農業用水を水道水に回す等、縦割り行政を見直してほしい。今あるインフラの活用をすればすむことだ。水田は天然のダム、不耕作水田に貯水するなどを行政は推進するような運動を進めてはどうだろうか。

この長良川の恵で わたしたちの子や孫まで 暮らせるように

ぎふ NPO センター・日本山村会議事務局 平井久美子

はじまり ～帰ってきた故郷で見たもの

大学生生活を終え、岐阜に帰ってきて見たもの。それは、バブル崩壊後の不景気のなかで、急激にパワーを失っていく岐阜市の中心市街地の様子でした。物心がついたころから当り前のように見てきた賑やかな景色は、私が東京に居たたった4年間でこんなに淋しくなってしまうものなのか。急速に力を失っていくように見えた地域の景色に抱いた危機感。それが「何かしなきゃいけないんじゃないか？」と動きはじめる大きな力になりました。

ORGAN

そんな折、同年代で岐阜のために活動を開始していた NPO 法人 G-net に出会い、「あらためて地域を見つめ直す」媒体として、フリーペーパー『ORGAN』を創刊。自分の生まれ育った街に誇りをもちたい、という気持ちで地域の魅力をあらためて取材し、伝えることを通して、「ここにしかないもの」「ここに生まれた生活文化」の必然性が何なのか、「地域」とはどのエリアを指すのか、などと思うようになりました。

水うちわ 透かしてみれば。

ORGAN の取材の中で、大きな出会いがありました。それは住井富次郎商店さんの「水うちわ」です。当時、10年ほど生産が途絶えていた水うちわを見せてもらい、復活するプロジェクトの手伝いをさせてもらうなかで、上流から運ばれてきた「和紙・竹」を使ったプロダクトであることから、水うちわの向こう側に、川で繋がった上流での暮らしが感じられるようになりました。一方で、伝統的にこの地で作られてきた工芸品が、現在ではつくることのできないでいる、という現状を引き起こす大きな要因であるグローバルな経済の問題に目を向けていくきっかけにもなったのです。

上流へ ～長良川流域持続可能研究会

「自分の生まれ育った地に誇りをもちたい」という地域への想いは、では何をすればいいのか？どうなっていったらいいのか？という想いに変化していきました。長良川を上流に向かって溯り、上流域で森林再生に取り組む人、里山再生に取り組む人、水源を守って暮らしてきた人に出会う。ほとんどやったことのない農業を体験させてもらう。同じように違和感、危機感を抱えながら活動に取り組む仲間とともに、様々な人に出会い、教えてもらうなか、この地域での暮らし続けていくためにできることを考える「長良川流域持続可能研究会」ができました。

グローバルな流れに呑み込まれて、流通も生産も、暮らしから遠く離れ、見えないところにあって簡単に足元が揺らいでしまう暮らしではなく、地域の資源を生かし地域の恵で生きていくことができるしくみづくりに取り組みたいという動きが出てきています。

日本山村会議と頼母子講

流域での持続可能性、というものすごく大きな目標にむかって、小さな小さな一歩を踏み出しています。小さな変化の集まりが大きな流れを作り出すのだという想いから、まずは足元の暮らしを見つめるきっかけづくりとして、この秋には、郡上市美並町にて「日本山村会議美濃郡上※」を予定。日本の基層文化を見つめ記録してきた民族文化映像研究所の製作した「粥川風土記」という記録映画を軸に、映画に描かれている長良川の美しい支流「粥川」を守る暮らしぶりに触れ、また地域・世代を超えて繋がる機会をつくります。

また、新しい取り組みとして、岐阜市中心部では大型店の進出に伴って小さな商店が減っており、その影響で、車・自転車に乗れなくなったお年寄りが買い物にすらいけないという現状がでてきています。中山間地では耕作放棄地が急増したり、また流通にのらない余剰生産物が増えています。その両方をつなぎ、手作りの小さな流域流通が作れないものか、と動きはじめています。

(※日本山村会議美濃郡上：2009.9.19～21 詳細はお問い合わせください。

sansonkaigi@gmail.com blog : <http://sanson-gujo.blogspot.com/2009/02/in.html>)

1. 平成 20 年度着工断念に続き

News No. 5 を発行したのが 3 月 23 日でした。それから 4 か月、私たちの予想を超える情勢の大展開がありました。現瞬間も緊張した状況にあります。

昨年秋、私たちが起こした岐阜県議会に対する導水路事業合意の撤回を求める請願は、採択はされませんでした。現在岐阜県を「環境に対する影響について、県民の理解が得られない間は着工を認めない」姿勢に立たせています。国には、これが着工に向け最大の障害となり、平成 20 年度着工を断念しました。

5 月 7 日、第 2 回事業監理検討会（建設を確実に進めるために設置された、国と三県一市がメンバーとなる検討会）は「長良川に放流するのは渇水時だけ。常時は木曽川だけに放流する。」との新しい案を提起しました。明らかに、導水反対の世論をかわそうとするものでした。しかし、渇水時には、長良川の流量の 4 割以上ダムの水を流そうという危ない計画の本質は変わりません。市民学習会を繰り返し開催し学習を深める中で「長良川に流す」という、どう考えても不思議な計画の本当の狙いも分かってきました。それは、今回の導水路計画において下流で長良川から木曽川に流すルートを作ることに便乗して、今まで市民批判が強く使えなかった長良川河口堰の未利用の水を木曽川に流し愛知県・名古屋市に引こうというのです。

私たちの宝・長良川は河口堰によって大きく傷ついています。汽水域は潰され死の世界となりました。魚類にも大きな影響が出ていることは繰り返し開いた学習会で多くの漁師・釣り人・市民から語られました。

私たちは、市民に窓口を閉ざす国に対し、この事業の根本的な問題である「長良川の魚類の生息及び木曽川のヤマトシジミに関する」公開質問状を 5 月 15 日第 7 回木曽川水系連絡導水路環境検討会会場（岐阜市）で手渡すことを確認しました。

ところがここで予想もしなかった 5.15 ショックが起こりました。

2. 名古屋市長が導水路撤退を表明

5 月 15 日中日新聞朝刊は「名古屋市が導水路撤退」の 1 面トップ記事を発表しました。私たちは河村新市長がこれまで水・ダムに関わる市民集会などに気楽に顔を出し発言もしていましたので、就任後「導水路問題」に何らかのアクションを起こしてくれるだろうと期待はしていました。しかし、これほど迅速に大胆に行動されるとは思ってもみませんでした。驚いている私たちにはマスコミからコメントを求める電話が鳴り

2009. 5.15 中日新聞

名古屋市が導水路撤退

徳山ダム河村市長方針 負担金不払い通告 利水権放棄も

国と東海3県反発必至

名古屋市の河村新市長が15日、徳山ダム（岐阜県揖斐郡）の導水路計画を撤回する方針を明らかにした。同市長は、導水路計画が長良川の水質を悪化させ、木曽川の水質を悪化させる恐れがあるとして、計画の撤回を求めた。また、導水路計画の負担金を不払いし、利水権を放棄する方針も明らかにした。

河村市長は、15日午後、岐阜市で開かれた「長良川水系連絡導水路環境検討会」で、この方針を明らかにした。河村市長は、導水路計画が長良川の水質を悪化させ、木曽川の水質を悪化させる恐れがあるとして、計画の撤回を求めた。また、導水路計画の負担金を不払いし、利水権を放棄する方針も明らかにした。

河村市長は、15日午後、岐阜市で開かれた「長良川水系連絡導水路環境検討会」で、この方針を明らかにした。河村市長は、導水路計画が長良川の水質を悪化させ、木曽川の水質を悪化させる恐れがあるとして、計画の撤回を求めた。また、導水路計画の負担金を不払いし、利水権を放棄する方針も明らかにした。



名古屋市が木曽川水系連絡導水路建設事業から撤退する「質」の観点について

2009年5月15日
「長良川に流す水は心から」市民学習会実行委員会
代表 藤野 志穂

「木曽川水系連絡導水路建設事業から撤退する」旨の、建設地と長良川水系の両端にある市民に広く知らせたい。

木曽川水系連絡導水路建設の「理由」(必要経路)は、これまで、国交省から、政府である形で明らかにされていない。

「徳山ダムができたから」(徳山ダム建設)というが、一部は誤りである。「理由」でなく、複数のダムに複数の導水路を建設するだけである。

昨今の環境・財政状況に照らして、大々的な事業、このように事業費が膨大に投入するとは考えられない。国は、長良川水系の利権を大きく取り、木曽川水系連絡導水路建設事業の中止に向けた努力に集中すべきである。

「導水路」を建設して、木曽川水系連絡導水路計画は、長良川河口堰の取水口を導水路に導くためのものである。長良川河口堰の取水口は、長良川河口堰の取水口であり、長良川を流す水は、長良川を流す水である。

長良川を流す水は、長良川を流す水である。長良川を流す水は、長良川を流す水である。長良川を流す水は、長良川を流す水である。



発行所 中日新聞社
社団法人 中日新聞社
〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
TEL 052-231-1811

続きました。市民学習会は環境検討会会場で「河村新市長の表明を歓迎する」談話を記者団に囲まれて発表するとともに国に公開質問状を手渡しました。

河村市長が表明したことは、「導水路事業は必要が無い事業であるから名古屋市負担の支出は止める。名古屋市は徳山ダムの水利権を放棄する。河口堰について前から私は反対だった。」

現在、「名古屋市撤退」をめぐる猛烈な反発が内外から起こっています。市役所内部からは「これまでの経過はどうなるのだ」東海三県知事は「負担が増えるようなことは絶対許さない」等など・・・しかし、「51万票」と市長の水問題への思いが確信の基礎にあり市長の姿勢は揺るぎません。国交省や農水省（農業用水の調整について）と話し合うことも自ら実践ですめています。また、賛否の学者を入れた市民討論会も8月2日に予定し、これまでの首長にはない、分かりやすい大胆な行動を展開しています。河川行政の改革を求める私たちに今、河村市長を孤立させない運動が必要です。

決して、楽観できる状況ではありませんが、大きな変化が起きています。普通の市民が「導水路」を話題にするようになりました。岐阜県の6月議会では賛否は別としてどの政党も「導水路問題」を発言せざるを得ない状況になっています。

3. 愛知県民92名が住民訴訟

愛知県でも導水路めぐって大きな動きが生まれています。この事業の最大の負担者は愛知県です。890億の事業に対し318億円もの負担をするというのです。「元気だった」トヨタも怪しくなっている中で愛知県財政は大ピンチ。日本で一番多くの失業者を発生させています。こんなときに不要不急の導水路事業に「金を出すのはおかしい」と3月31日554名の県民が住民監査請求をしました。しかし、請求は却下。県民92名は6月11日県知事、企業庁長に対し「木曾川水系連絡導水路事業公金支出差止請求」をすることを名古屋地方裁判所に提訴しました。提訴の日には県庁前で「愛知県も導水路から撤退せよ」の10mの横断幕を展開して宣伝行動した後、50名を超える市民で国交省中部地方整備局前をデモ行進しました。市民学習会の仲間も岐阜から大勢駆けつけ「長良川に徳山ダムの水はいらない」の横断幕を掲げて参加しました。

「導水路はいらない！愛知の会」は、6月20日に住民訴訟スタート集会を成功させ、7月29日第1回口頭弁論に向けた準備を進めています。

4. このままで、このままで流れよ長良川

去る6月6日長良川市民学習会は、岐阜市文化センターにおいてトーク&コンサート「このままで、このままで流れよ長良川」を開催しました。素人団体が大会場でコンサート？「出演者はみんな地元の人。マスコミが取り上げてくれるのか？」何と無謀な事務局長！実行委員の全員が心配顔。提案した私も不安になってきた。でも「会場もバンドも予約しちゃったし」の居直りで1ヵ月半みんなががんばりました。幸い若い実行委員が応募してくれたパタゴニア社の環境助成金に



2009. 6.7 中日新聞

このままでこのままで流れよ長良川

トーク&コンサート
このままで、このままで
流れよ長良川

6月8日(土)pm1:30~pm5:00
岐阜市文化センター小劇場

グループ「蓬木透&雑花穂」が清流から河口までの自然を表現したオリジナル曲「長良川」などを披露、歌詞を約十三の連の美濃和紙を使って絵本にした「えほん長良川」を小字で手に持って登場。山から海へ緑は流れる長良川と、声を含ませて合唱した。

岐阜市金町の市文化センターで開かれた。歴史や自然環境を考案このままで、このままで、流れよ、長良川」が、6日、

岐阜市金町の市文化センターで開かれた。歴史や自然環境を考案このままで、このままで、流れよ、長良川」が、6日、

導水路計画反対 岐阜で300人参加
市民団体が主催

徳山ダム・掛妻川町、水木曾川や長良川に流す導水路計画に反対する市民団体「長良川市民学術会」が主催、約300人が訪れた。トークショーにはフット・エコロジスト新村安雄さんとリッジ・ヤナリスト高橋恒美さん、NPO職員平井久美子さんが参加。長良川の歴史・自然と未来を語る一テーマで交話を話した。岐阜や郡上市など長良川沿いでまちづくりに取り組みする平井さんは「まちづくりにも長良川が大きな役割を果たしている」と話した。

長良川を破壊する空本流を雑花穂と、歌をもとに作った「えほん長良川」を贈りあうこともあった。岐阜市金町の市文化センターで。

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾川に流す「木曾川水系連絡導水路事業」からの撤退方針を表明している名古屋市の河村たかし市長は十日、市としての「正式決定」の判断材料とする公開討論会を八月上旬に開くことを明らかにした。

「水は本当に十分なのか、濁水の時はどうなのか。濁水の時はダムも濁水じゃないかと思っただけだね。異常濁水の時は、木曾川の水を使っている人たちが融通し合えない」と、ダム不要論の市長。討論会には事業に賛成、反対双方の専門家を招き、できるだけ

徳山ダム導水路

賛否意見 市民にも

来月上旬に公開討論会



け多くの市民が傍聴できるようにする。

同日開かれた愛知、岐阜、三重の三県と同市の副知事・副市長会議で、国側は、市が撤退した場合、二年前から、国の協力を得て、市地下トンネルの口径を縮小することを中心部を流れる堀川に木曾川の水を流して浄化している社会実験十億円になるなどの試算を明らかにした。たかし市長は五月上旬に独自に行なった試算では事業費は倍の二十億円のため、市長は「積弊に疑問」し、受け取れる発言も。

「これらを伝えた河村市長は「木曾川の水は夫の恵み。市のモノでも、誰のモノでもない。未来永劫、皆で大事にしていけないか」と報道陣に話した。

があり、精査したい」と話し、国側の詳細な根拠を求める方針だ。同会議で、三県の副知事らは、異常濁水時に農業用水と調整する

そして、7月10日に開催された3県1市の副知事・副市長会議では、ついに徳山ダム導水路とまったく関係がない「堀川導水社会実験」を持ち出して脅し始めました。・・・「社会実験」の水源を木曾川としているのは、名古屋市が木曾川自流のみに頼ることなく、徳山ダムや導水路などへの参画などの不断の努力により、結果として木曾川の流況が改善され木曾川の流況を痛めないで導水する可能性もあるということが前提になっている。・・・つまり、「堀川を愛する名古屋市民のみなさん！これまで3年間木曾川の水を犬山から市水道の導水管を使って毎秒0.4m³流す実験でいい成果が出たのに、導水路撤退したら堀川清流化の夢が壊れることになるんですよ！」と。「導水路撤退」市長声明を支持する市民世論の分断を狙ったものです。

賢明な名古屋市民は、466戸の村を沈めた水で、自分たちが汚したドブ川をきれいにするという「徳山ダム有効利用」論の誤りに気がつくでしょう。

名古屋市の下水高度処理率は、4.1%（大都市平均20.1%）。河川の浄化に最も必要な合流式下水道改善率も、大都市平均30.3%なのに名古屋は15.7%で低水準です。本当に河川をきれいにしたいなら、ここに目を向けるべきです。追い詰められた導水路推進派は、今後なりふり構わず、あれこれ「建設理由」を持ち出し最後の抵抗を強めるでしょう。

さらにさらに学習と運動を広げ「導水路はいらない！」世論を大きくしましょう。

その絶好のテキストが、発行されました。

「徳山ダム導水路はいらない！」

四六版 162 ページ 税込み 1000 円
とても読みやすい本です。

詳しくはこのNEWSの次のページをご覧ください。

どんどん普及しましょう。書店で扱っていますが、もし店頭で見つからない場合は「長良川市民学習会」事務局でも扱っていますのでご連絡ください。

依頼があれば講師も派遣します。

税金のムダ使いはやめて！

徳山ダム導水路はいらない！

近藤ゆり子 著

河村たかし 名古屋市長は “撤退宣言”

名古屋はカネを払うつもりはなっあ！

ツケを払うのは 私たち市民です

あおり不合理な「徳山ダム導水路」計画 市民感覚では理解に苦しむプロジェクトを徹底批判する！

「徳山ダム導水路はいらない！」緊急出版によせて

2009年5月20日、武藤仁・事務局長からの、またの「業務命令」電話。

「河村たかし・名古屋市長の徳山ダム導水路撤退表明を受けて、導水路問題に関する本の緊急出版したい、という話が風媒社からきた。是非多くの人に読んで貰える本を出すチャンス。筆者となつて、どういうものをどう出すか、出版社と話し合つて欲しい」。

徳山ダム導水路問題について、これまでの「木曾川水系水資源開発」の経緯、行政側のさまざまな手口、運動側の事情、そして法律や制度の知識も含めて、一応頭に入っているのは、「木曾川水系水問題オタク」の少人数しかいません。それぞれが全て「すでに十分に忙しい+河村発言でさらに忙しい/死ぬ！」状態。消去法でいけば、私が書くしかありません。

5月22日に風媒社を訪れました。編集側は「売れる本にしたい」「徳山ダムも導水路も全く分からないから、そちらで目次とか骨子を、3日後くらいに示して欲しい」というだけ。

注文の「枠」がないことが私には超難題です。「売れるか否かの最大要因は時間、話題性のあるうちに出せるかどうかです。レジュメ風に骨子を提示しても、その意味する所をお伝えするのは難しく、手間取るばかりでしょう。まずは粗原稿—四〇〇字詰め130枚分程度—を3日ほどで書いてみますので、それを元に、また”注文”をつけて下さい」。

「四〇〇字詰め130枚分を3日で書く」というのはツツじゃない…この強引さで出版社側の想定した発行時期を半月ほど前倒し、さまざまな方のお力添えと支援があつて、何とか名古屋市の公開討論会前に出せました。写真や図表は全面的に武藤さんに頼り切りました（何人かの方の写真やグラフを拝借することも含め）。あまりにも多くの研究者や法律家の知見を頂いている（パクする？）のでお名前を挙げ切れません。せつかくの高い知見を提示して頂きながら、誤りなどがあれば、ひとえに私の理解不足・表現力不足です。

この本の出版を直接援護して下さい仲間数人だけでなく、これまで一緒に徳山ダム問題—導水路問題に取り組んで下さった多くの方々のお力があればこそこの緊急出版です。改めて皆様からお礼を申し上げます。

近藤ゆり子

徳山ダム導水路はいらない！ 目次

はじめに—ツケを払うのは誰なのか

プロローグ

- 1 名古屋市の「導水路撤退表明」の衝撃
- 2 「導水路」は無駄をなくす事業なの？

第1章 〈徳山ダム導水路〉ってなに？

- 市民感覚ではとても理解できない巨大プロジェクト
- 1 あまりにも不合理な「木曾川水系連絡導水路計画」
 - 2 利水から治水へ—すりかえられた「目的」
 - 3 改正河川法が泣いている！
 - 4 いまなお市民への説明はなし

第2章 水は本当に足りないの？

- 長良川河口堰の水もほとんど使っていないのに…
- 1 水の需要は減っている
 - 2 余っている水はタダではない
税金の無駄使いは即刻やめて！
—各都市の対応を検証する

第3章 河川環境の改善になるの？

—川は用水路ではありません

- 1 国交省は生態系についての知識があるの？
- 2 科学的根拠のない「正常流量」
- 3 環境改善どころか環境破壊に

第4章 渇水対策のため？

- ありそうもない危機ばかり持ち出さないでください
- 1 「取水制限」は怖くない
 - 2 水を公平に分ち合うために

第5章 こんなにある徳山ダム・長良川河口堰の負の遺産—もうこれ以上だまされないために

- 1 「有効利用」という呪い
- 2 経済的メリットって本当？
- 3 やっぱりいらなかった長良川河口堰

第6章 事業撤退という選択はできるの？

- これができるんです！
- 1 利水者単独の意思で撤退できる
 - 2 ダムの時代は終わった

エピローグ

—持続可能な世界をつくる一歩を踏み出そう

判決を待たず、「導水路」事業の消滅（三県一市の撤退）で終止符を！

「導水路はいらない！愛知の会」
共同代表・事務局長 加藤 伸久

1 はじめに

愛知県監査委員は5月13日、ムダ（長良川河口堰）にムダ（徳山ダム）を重ねる徳山ダム導水路への公金差し止めなどを求める「住民監査請求」について却下を決定しました。

却下の理由は大要、① 住民監査を求める請求人（539筆の有効署名）の主張は、流水正常機能並びに新規利水の両面から必要性がないとする「独自の見解」に過ぎない。② 国が決めたフルプラン（基本計画）にもとづく事業の妥当性を検討することは「監査委員の職務」ではない。 という不当・不可解なものでした。

2 情況を一変の河村市長発言

県が挑戦状を叩き付けてきた翌14日、河村名古屋市長は、「導水路」事業（名古屋市の負担総額121億円）から撤退の方針を表明し、同時に事業の主体「水資源機構」に対し、5月25日が期限の「第1回建設負担金」の支払いを拒否通告しました。

行政のムダを省き、ムダ遣いを許さない河村市長の信条に照らせば、この導水路事業ほどムダなものはありません。「会」では5月19日、市長の勇氣ある決断を高く評価し、県もただちに事業からの撤退に向けた検討に入るべきとの「歓迎声明」を発表しました。

3 頑迷な三県と国交省・水資源機構

ところが、愛知県は財政が100年に一度の不況で厳しいなか、暴挙ともいえる「導水路」事業に公金を318億円も投入し、ムダな事業を推進の旗振り役を演じています。

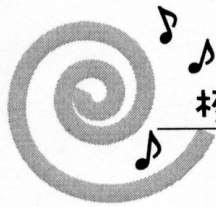
また、3県1市と国交省・水資源機構が出席の「木曾川水系導水路事業監理検討会」では、撤退のルールが有るにも拘わらず撤退声明を嫌悪・反発。農業用水「余裕」発言に関連して食料供給へ話題をすり替え。旧徳山村民が犠牲（誰が強いたのか、本末転倒）の「徳山ダム」に確保の水に説明責任を果たすべき。等々の「名古屋バッシング」が行われています。

4 おわりに

日本国憲法・三大原則「主権在民」の下、地方自治体の役割は住民生活を守ることです。「徳山ダム導水路」事業への支出は、地方財政法「経費の必要最小限度の原則」、および地方自治法「最小経費による最大効果の原則」に違反します。

監査請求人有志・92名は6月11日、県知事らを被告に「導水路」事業への公金支出差し止めを求める「住民訴訟」を名地裁に提訴し、同20日にはスタート集会を成功させました。

たたかいの場は法廷へと移り、第1回口頭弁論の開廷は7月29日（水）午後2時です。判決を待たずに「事業の消滅」（撤退）で終止符を打つよう、共にならばりましょう。



校歌に歌われた長良川 ⑥

郡上市立八幡小学校校歌

作詞／横関 信雄

作曲／美濃路 駒之助

一、稚児の峰 高きをあおぎ

志 天を指さす

新しき国のいしづえ築く者

師とはらからと

望みもて 明日にすすまん

ああわれら 八幡小学校

二、吉田の瀬 清きをかがみ

移る世の ちりによこれず

ひとすじに まこと 求めて

つらぬけば 汗もたのしや

日に月に 剛くすすまん

ああわれら 八幡小学校

三、父や母 学びたまいし

園に今 受けてわれあり

つちかいて 華とひらきて

いやたてん 栄えのまなびや

すこやかに 共にすすまん

ああわれら 八幡小学校

郡上八幡は長良川上流の水の豊かな城下町です。八幡小学校は町の中心を流れる長良川の支流・吉田川沿いにあり、明治6年に創立された歴史のある学校です。江戸時代に土農工商の融和策としてはじめられたという郡上おどりが歌い踊り継がれ、今年もはじまりました。

事務局より

岐阜県議会への請願署名から一年。名古屋市長の撤退宣言、愛知県民の住民訴訟などで情勢は大きく動き出そうとしています。

学習会で吉村さんの撮影された長良川河口堰直下流の真っ暗なヘドロの世界、上流部の生き物のいない「沈黙の川」の様子を見た参加者は声を失いました。これほどまでとは！

「あきらめないで、楽しく、運動を上げよう」

「私たちは微力かもしれないが無力ではない」

トーク&コンサートの声です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

今後の予定

8月2日(日) 名古屋市主催・導水路事業公開討論会
(聴講者:名古屋市市民100名は抽選)

8月22日(土)～23日(日) 恒例:徳山村キャンプ
主催:徳山ダム建設中止を求める会
問合せ・申込み:近藤0584-78-4119

9月26日(土)～27日(日) 「愛知の会」・「長良川市民学習会」合同現地調査バスツアー
河口堰～徳山ダム～千鳥橋～坂祝～犬山 1泊2日参加費15,000円
問合せ・申込み:学習会事務局 武藤

発行：長良川市民学習会（長良川に徳山ダムの水はいらない市民学習会実行委員会）

代表：粕谷志郎／岐阜大学教授

連絡先：武藤 仁／090-1284-1298 〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

<http://dousui.org/>（最新情報や資料などが揃っています。ぜひご覧ください。）

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403 口座名称：長良川市民学習会